

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年5月31日(2012.5.31)

【公開番号】特開2010-260905(P2010-260905A)

【公開日】平成22年11月18日(2010.11.18)

【年通号数】公開・登録公報2010-046

【出願番号】特願2009-110806(P2009-110806)

【国際特許分類】

C 08 F 299/06 (2006.01)

C 08 F 290/06 (2006.01)

C 09 D 4/00 (2006.01)

C 09 D 175/14 (2006.01)

B 05 D 7/24 (2006.01)

【F I】

C 08 F 299/06

C 08 F 290/06

C 09 D 4/00

C 09 D 175/14

B 05 D 7/24 301T

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月10日(2012.4.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

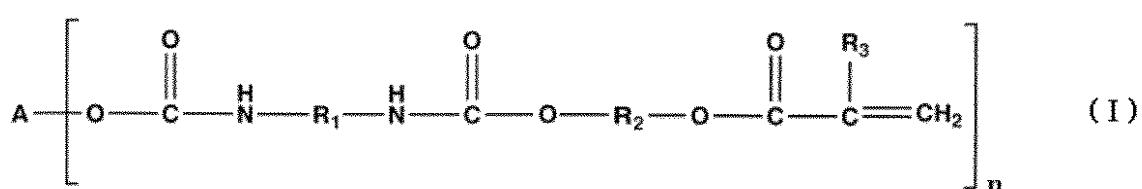
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 一般式(I)

【化1】



(式中、Aはジエン系ポリマー残基を示し、R₁は脂肪族、脂環族または芳香族系のイソシアネート化合物からイソシアネート基を除いた残基であり、R₂は、それぞれ独立して、炭素数6～50の芳香族基、炭素数2～20の脂肪族基、炭素数6～50の脂環族基を示し、R₃は水素原子またはメチル基を示し、nは1～10の自然数を示す。)を有する(メタ)アクリロイル基を有する反応性ポリマー100質量部に対し、(b)光重合開始剤0.1～10質量部を含むことを特徴とする自己修復性を有する光硬化性組成物。

【請求項2】

更に、(メタ)アクリロイル化合物(c)が反応性ポリマー(a)100質量部に対して400質量部以下の量で配合される請求項1記載の自己修復性を有する光硬化性組成物

。

【請求項 3】

ジエン系ポリマー残基(A)の数平均分子量が 300,000 以下である請求項 1 または 2 記載の光硬化性組成物。

【請求項 4】

ジエン系ポリマー残基(A)がポリブタジエン残基またはポリイソプレン残基である請求項 1 ~ 3 いずれかに記載の自己修復性を有する光硬化性組成物。

【請求項 5】

ポリブタジエン残基が 1,4 - ポリブタジエン残基である請求項 4 に記載の光硬化性組成物。

【請求項 6】

プラスチックフィルム用トップコート剤、プラスチック部品保護用コート剤、光学材料保護用コート剤、化粧合板用トップコート剤または自動車用クリヤー塗料である請求項 1 ~ 5 いずれかに記載の自己修復性を有する光硬化性組成物。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれかの光硬化性組成物を用いることによる、塗膜形成方法。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 6 のいずれかの光硬化性組成物を用いて得られる、自己修復性を有する塗膜。